

施策 の柱		目標 種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度 の取組計画(目標)	R6年度 の取組実績	取組 等達成 度	R6年度 の成果・効果	成果 等達成 度
1 確かな学力を育む (知育)	(1)基礎学力の定着 と学力の向上	成果	小学校、中学校ともに全国上位を目指す。 【市総合計画指標】 全国学力・学習状況調査における各教科の正答率 小学校:全国平均+5ポイント 中学校:全国平均+3ポイント	(学校 指導 主事) 学校教育係課	①R6.4.18 全国学力学習状況調査実施 R6.12.6～7 高知県学力定着状況調査実施 ②全ての校長会で周知(事前・事後の取組を含む) ③調査分析結果を8月・10月・2月校長会で各校に伝達 ④9-10月に全校へ訪問し実施、校長面談で聞き取り ⑤教育研究所主催で各教科で実施	①R6.4.18 全国学力学習状況調査実施 R6.12.3～4 高知県学力定着状況調査実施 ②全ての校長会で周知(事前・事後の取組を含む) ③調査分析結果を8月・10月・2月校長会で各校に伝達 ④910月に全校へ訪問し実施、校長面談で聞き取り ⑤教育研究所主催で各教科で実施	A	令和6年度全国学力学習状況調査 全国平均との比較 ○小学校: 国語+2.3 算数+2.2 ○中学校 国語+4.4 数学+3.7	A
	(2)教職員の資質・指導力の向上	成果	年間を通じて3回の支援派遣を実現させる。	(学校 指導 主事) 学校教育係課	3回以上実施校＝16校(100%)	①～④ 全16校で実施	A	3回以上実施校＝18校(100%)	A
	(3)保幼小中連携教育の推進	成果	①すべての学校で保幼小中の情報交換会を実施 ②すべての小学校でスタートカリキュラムを作成	(学校 管理 主幹) 学校教育係課	保幼小中連携教育の充実とスタートカリキュラムの作成 ①保幼小中連携教育の研究指定校の設定 ②保幼小中情報交換会の開催 ③保育所長会への参加 ④小中の連携教育の実施 ⑤小学校においてスタートカリキュラムの作成 ⑥保幼小中連携カリキュラムの検討	①1校1役教育研究指定において西土佐小中学校を指定 ②、⑤全13小学校にて実施 ②11月に保育所長と学校長の合同研修会を実施 ③4月の保育所長会に参加 ④⑥保幼小中連携カリキュラムの作成	A	①全16校で実施(100%) ②全13校で作成(100%)	A
	(4)国際理解教育・英語教育の充実	成果	①「全国学力・学習状況調査」英語において全国平均以上をめざす。 ②中3卒業段階において英語検定3級程度取得50%以上をめざす。	(学校 管理 主幹) 学校教育係課	英語教育・外国語活動の充実 ①英語検定3級受験料半額補助 ②ALTの重点配置校の指定による英語力の底上げ ③小学校外国語活動に係る研修会の実施 ④英検ESG, 英検IBAの実施 ⑤イングリッシュイベントの実施	①年度内に事業実施(41名助成) ②重点配置校2校(中村中、中村西中)を指定 ③5月、10月の年間2回実施 ④小中で計画的に実施 ⑤8月にイングリッシュ・サマーパーティを実施(中学生対象) ⑤12月にイングリッシュ・ウインターパーティを実施(小学生対象) ⑤通年でEnglish Classを実施(中学生対象)	A	①標準学力調査 (全国平均との比較) 本市中学3年生48.4÷全国平均50.9＝成果目標に対する達成率95.0% ②中3卒業段階における英語検定3級程度取得率43.5%(成果目標に対する達成率87%) 両目標の達成率平均91%	A
	(5)特別支援教育の推進	活動	①障害のある子どもの能力や特性を最大限に伸ばす。 ②発達障害のある子ども、あるいはその疑いや傾向がみられる子どもの学習・生活支援 ③障害のある子どもの適正就学 ④特別支援教育学校コーディネーターの専門性の向上 ⑤校内支援体制の強化	(学校 管理 主幹) 学校教育係課	ユニバーサルデザインに基づく学習環境の充実	全16校で実施	A	①学習環境の充実が図られた。	○
					特別支援教育支援員配置	9校への支援員を通年配置 特別支援教育支援員研修会を年間3回実施(4月、5月、10月)	A	②支援員を配置した9校において学習・生活支援が実施された ②研修回数を3回に増やしたことにより、支援員の資質向上の一助となった ⑤支援員の配置により校内支援体制が強化された	○
					相談支援体制の整備	教育相談実施(46人) 巡回相談実施(55人)	A	③適正な就学判断に繋がった。	○
					特別支援教育学校コーディネーター研修会の実施	年間2回実施(第1回は不登校担当者との合同研修会) 1回目:6月に実施 2回目:10月に実施	A	④研修参加者(1回目:27人、2回目:16人) ⑤不登校担当者との合同研修会にしたことにより、校内支援体制が強化された。また、中村中学校が県の指定を受けている「通常の学級における合理的配慮実践充実事業」の校内研修に参加させていただいたことで、専門性を深めることができた。	○

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱		目標種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度 の取組計画(目標)	R6年度 の取組実績	取組 等達成度	R6年度 の成果・効果	成果 等達成度
1 確かな学力を育む (知育)	(6) 複式教育の充実	成果	複式学級を有するすべての学校において、複式教育の充実を図るために、各種研修会に全員2回以上参加	(学 校 教 育 係 課) 指導主事	複式教育の充実 ①複式教育研究大会の実施 ②小小連携教育の推進 ③授業づくり講座への参加	①R6は下田小学校で実施 ②市内小規模校の①、③への参加 ③八束小学校への参加	A	・複式小学校8校中全校において研修に2回以上参加(100%)	A
	(7) 情報教育の推進	成果	市内小中学校全校において、PC1人1台環境を目指す。	(学 校 教 育 係 課) 指導主事	ICT機器及び通信環境の整備 ①導入したPCの授業等における利活用の推進(教職員の研修、授業用ソフト・デジタル教科書の活用等)	①全16小中学校において、1日2～3回は授業で活用 ①県の整備した、オンライン学習を支援する学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の活用 ①デジタルドリルを活用して、全16小中学校において持ち帰りの実施	A	・全16小中学校において、1日2～3回は授業で活用100% ・デジタルドリルを活用して、全16小中学校において持ち帰りの実施100% ・小学校ICTスキルアップ研修において悉皆対象者以外の教諭も希望で受講し研鑽できた。	A
		活動	「情報活用能力」を教科等横断的に育成する。	(学 校 教 育 係 課) 指導主事	各校におけるプログラミング教育の充実	全16校においてアンプラグドも含めたプログラミング教育を実施	A	プログラミング教育の実施を通して「情報活用能力」が教科等横断的に育成された。	O
2 子どもたちの豊かな心を育む (徳育)	(1) 豊かな心を育む教育の推進	成果	全国学力・学習状況調査における児童生徒の道徳性(自尊感情、規範意識)意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る。	(学 校 教 育 係 課) 指導主事	四万十市・三原村道徳教育推進委員会の開催・運営 ①6月・2月に全体の推進委員会の開催 ②小・中それぞれで公開授業研修会及び授業反省会の実施 ③実践のまとめ作成	①R6.6、R7.1(紙面調査)にて実施 ②中村南小学校・三原西中学校で実施 ③道徳の成果や課題学習、学習指導案をまとめた集録(データ)を全16校で作成	A	令和5年度全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙設問(9)、(12)、(13)の肯定的評価割合の平均 ○小学校 +0.3 全国91.2、本市91.5 ○中学校 +0.6 全国89.7、本市93.5 達成率:99.2%=(本市91.5+93.5)÷(全国91.2+3+89.7+3)	A
	(2) いじめ・不登校問題等への取組	成果	不登校の発生率を全国平均以下に改善する。	(管 理 主 幹) 学 校 教 育 係 課	生活指導・生徒指導の充実【不登校・問題行動等調査】 ①月ごとの3日以上欠席者調査及び個々の状況把握とその分析(教育研究所) ②教育支援センター不登校児指導員・SSWによる家庭訪問 ③不登校担当者会の年2回の実施 ④学校訪問の実施	①月報により実施 ②教育支援センターに不登校児指導員4名、SSW2名を配置し、適宜適切に実施 ②学校配置SSW(3名)についても適宜家庭訪問を実施 ③6月、1月に実施 ④6-7月及び9-10月に全校実施	A	令和6年度末不登校人数 (1,000人あたりの出現率) 小学校19.8人(全国17.0人) 中学校77.4人(全国59.8人) 全国平均(17.0+59.8)÷本市実績(19.8+77.4)=79.0%	B
		成果	要支援群の子どもたちを減少させ、学級の満足群の子どもたちの割合を高める。	(管 理 主 幹) 学 校 教 育 係 課	Q-Uアンケートの実施・分析を通した学級づくりの推進 ①1学期及び2学期後半のQ-U実施を通して学級の状況把握 ②各学級の実態について共有化を図り、課題のある子どもへの対応策の実施	①全16校で実施 ②全16校で、校内研修や校内支援会において共有化・対応策の検討	A	1学期結果:71.6% 2学期後半:77.3% 満足群の子どもの割合が高まった(107.9%)。	A
	(3) 安全・防災教育の充実	成果	①危機対応マニュアル(防災マニュアル)の整備及び年3回以上の避難訓練の実施。 ②「高知県安全教育プログラム」を使用した防災教育の実施率を100%とする。	学 校 総 務 教 育 係 課	防災教育の推進・避難訓練の実施 ①危機対応マニュアル(防災マニュアル)の整備 ②想定状況を違えた年3回以上の避難訓練の実施 ③「高知県安全教育プログラム」を活用した防災教育の実	①全16校において整備済みの危機対応マニュアルについて各校において見直しを行った。 ②③全16校にて実施	A	①各校において避難訓練の年3回以上の実施100% ②実施率100%	A
	(4) 学校・家庭・地域の連携強化	成果	①市内全域の小中学校において学校地域支援本部事業に取り組む ②コミュニティ・スクールの設置に努める。	学 校 教 育 係 課	地域学校協働本部事業 ①地域学校協働本部事業の推進	①全16校を対象に15本部で地域学校本部事業を実施	A	①16校で実施(100%) 地域や家庭と協働した取り組みを各学校で実施し、教職員の負担の軽減や地域ぐるみで児童生徒の育成する機運向上が図られている。	A

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱		目標種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度 の取組計画(目標)	R6年度 の取組実績	取組 等達成 度	R6年度 の成果・効果	成果 等達成 度
2 子どもたちの豊かな心を育む(徳育)	(5)ふるさと教育の推進	成果	①すべての学校の年間指導計画にふるさと学習を位置づける。 ②研究発表会に、すべての小学校が参加する。	(学学校校 管校校校 理教教教 主育育育 幹係係係 課)	ふるさと教育の推進 ①各学校の年間指導計画に位置づけ ②四万十市一校一役教育研究の研究指定校の指定 ③「ふるさと発見！ 四万十の子ども研究発表会」の開催	①全16校で実施 ②東中筋小を指定 ③R7. 1月に実施	A	①全16校で位置づけ(100%) ②1/31に実施し、市内全小学校13校から133名の参加を得た(100%)。	A
	(6)キャリア教育の充実	活動	キャリアパスポート(学習記録ノート)を作成・活用する。	(学学校校 指校校校 導教教教 主育育育 事係係係 課)	キャリアパスポート(学習記録ノート)を作成・活用	全16校で作成・活用 全16校で上級学年・上級学校への引継ぎ	A	社会で人と人との関わりながら生きていくために欠かせないスキルが身に付き、コミュニケーション能力の向上に繋がった	○
	(7)環境教育の推進	活動	四万十川に代表される豊かな自然や水資源、森林資源など地域の恵まれた自然環境を有効活用し、体験活動を通して自然保護に対する意識の高揚を図る。	学学校校 校教教教 校育育育 係係係 課)	長期宿泊を伴う宿泊型体験学習のニーズがないため、計画なし	長期宿泊を伴う宿泊型体験学習は未実施	C	未実施のため評価不能	△
				学学校校 校教教教 校育育育 係係係 課)	山の学習支援事業の実施	市内5校において実施	A	自然環境を活用した学習を一人ひとりが自ら体感することで、あたりまえにある自然環境への興味・関心・学習意欲の向上が図られた。 海・山・川が身近にある四万十市への郷土愛を育む良い機会となっている。	○
	(8)教育環境の整備	成果	令和4年4月を目標に、市内中学校を3校に再編する。	学学校校 校教教教 校育育育 係係係 課)	①児童生徒の事前交流事業等の取り組み ②令和6年4月に再編となった校区について生活状況アンケート等の実施 ③再編後の課題を整理し、今後の教育環境の向上及び改善に向けた検討を実施	①事前交流については大規模校を中心に学期ごとに実施。 ②第2次再編計画により再編された校区から通学する生徒及び保護者に対し、令和6年7月にアンケート調査を実施。 ③アンケート結果を検証した結果、現在は再編して良かったと感じる生徒・保護者が過半数を超える等、肯定的な意見が多く、再編により生じた全体的な課題は見られなかった。今後もスクールバスの運行や拠点校部活動の推進等により教育環境の向上に継続して取り組むとともに、事前交流事業の継続実施等により、引き続き大規模校通学前の不安感軽減を図ることとした。	A	事前交流事業及び再編後の学校生活に係るアンケート調査を実施し、調査結果の検証を行った。	A
3 健	(1)体力・運動能力の向上と健康教育の推進	成果	①体育・保健体育の授業が楽しいと思う児童生徒の割合95%以上を目指す。 ②【市総合計画指標】 全国体力・運動能力、運動習慣等調査におけるT得点 小学校:全国平均以上 中学校:全国平均+3ポイント	(学学校校 管校校校 理教教教 主育育育 幹係係係 課)	体力・運動能力向上に向けた特色ある取組 児童生徒の実態に基づく体力向上策の策定と実施(学校経営計画との関連を図る)	全16校で学校経営計画に体力向上策を位置づけ、実施	A	①本市小学5年生及び中学2年生における肯定的評価95.0%÷成果目標95.0%=成果目標に対する達成率 100.0% ②小学5年男女平均T得点51.8点÷全国平均50点=成果目標に対する達成率103.6% ③中学2年男女平均T得点53.3点÷成果目標53点=成果目標に対する達成率100.5%	A

第2期四万十市教育振興基本計画 施策進捗状況確認シート

施策の柱		目標種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度の取組計画(目標)	R6年度の取組実績	取組等達成度	R6年度の成果・効果	成果等達成度
やかな身体を育む (体育)	(2) 基本的生活習慣の確立と食に関する教育の充実	成果	規則正しい生活リズムが身に付いている(毎日、同じくらいの時刻に起床)児童の割合75%以上、生徒の割合65%以上とする。	学学校校 (管教育主係課幹) 学学校校 学校給食教育係課	基本的生活習慣の定着に向けた学校と家庭が連携した取組の推進 ①学期に1回のアンケート調査の実施 ②学校便り等によるアンケート結果の家庭への情報提供 ③食生活調査の実施 ④学校給食摂取基準の作成(体重、身長から栄養価を出す。肥満傾向児出現率の算出) ⑤朝ごはんコンテストの実施(給食献立に採用) ⑥給食時間の放送(早寝早起きについて啓発)	①全16校で実施 ②全16校で実施 ③6月実施。小5、中2対象 ④4.5月実施の身体測定結果より計算し、7月摂取基準作成 ⑤8月実施。小5以上対象 応募521、採用20件 ⑥毎日実施	A	(全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 令和6年度調査結果) 設問「毎日、同じくらいの時刻に起きている」に対する「そう思う」の回答率 児童47.5%、生徒60.8%(目標達成率:児童生徒合計103÷目標140(児童75%、生徒65%)=73.6%→B (参考:肯定的回答率 児童 89.5%、生徒 92.2%)	B
		成果	朝食を必ず食べる児童の割合を95%以上、生徒の割合を90%以上とする。	学学校校 学校給食教育係課	食事の重要性について理解を図る年間指導計画の作成 ①食に関する指導の全体計画及び年間指導計画に基づく食育の推進 ②学校給食の献立から減塩化を図る	①～② 全17校で実施(県立中学校含む)	A	(令和6年度 食に関する指導の実施状況調査) 朝食を必ず食べる児童の割合86%、生徒の割合84%(達成率91.9%=(86+84)/(95+90))	A
4 地域文化の振興	(1) 文化財の保護	成果	①調査件数20件 ②指定文化財指定件数2件 ③博物館企画展12回 ④収蔵資料増加数10点	社会生涯 教育学習振興係	文化財調査の実施 ①開発事業に伴う試掘確認調査及び報告書作成、遺物整理 ②博物館展示のための調査 ③博物館収蔵資料に関する調査 ④市史編纂に係る市内文化財調査	①開発事業に伴う試掘確認調査及び報告書刊行に向けた遺物整理 ②博物館展示のための調査 ・七星剣年代調査:0件 ③博物館収蔵資料に関する調査 ・寄贈資料確認調査(2件) ④市史編纂に係る市内文化財調査12件 文献リスト作成 7,856件	B	①調査件数12件(年間目標4件に対し300%) ②計画期間中新規指定文化財累計1件(5年目累計目標2件に対し50%) ③博物館企画展4回(年間目標2回に対し200%) ④収蔵資料増加数29点(年間目標2点に対し1,450%)	S
	(2) 郷土文化の活用	成果	博物館来館者数をリニューアル前の4,000人程度から令和5年度には、10,000人を目指す。	社会生涯 教育学習振興係	郷土博物館の運営 ①年間4回の企画展開催 ②小中学校と連携したふるさと教育への活用 ③普及イベントの開催	①年間4回の企画展開催 ・四万十風景ことはじめ江川崎:R5.2月～5月 ・さらたび うなぎの蒲焼き:R6.8～R6.10月 ・アニマルミュージアム:R6.11～R7.2月 ・まちの灯り:R7.2～5月 ②小学校3校、中学校1校、高校1校、その他1者で出前授業等を実施 ③博物館クイズラリー実施、高知高専共同事業実施	A	博物館来館者数 5,233人(令和6年度目標10,000人に対し52%)	C
		成果	文化的景観の保全について各種事業と適切な調整が行われ、効果的な活用が継続される。 【市総合計画指標】 地域文化に関する講座数年間25回	社会生涯 教育学習振興係	四万十川の文化的景観の保全・継承 ①まち歩きと連動したサイト運営 ②企画展の開催 ③重要な構成要素追加協議 ④流域市町連携事業実施 ⑤整備活用計画改定	①まち歩きと連動したサイト運営 ・観光課イベント連携1回 ②江川崎展1回開催、うなぎ展1回開催 ③整備活用計画改定に合わせて検討中 ④ ・流域連携情報発信事業 ・流域連携普及啓発事業 ・流域会議2回開催 ⑤ ・市検討会議1回開催 ・整備活用計画検討	A	地域文化に関する講座24回(文化講座6回、出前授業18回、企画展4回計28回)(目標回数に対し112%)	S

施策 の柱		目標 種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度 の取組計画(目標)	R6年度 の取組実績	取組 等達成 度	R6年度 の成果・効果	成果 等達成 度
5 青少年の 育成	(1) 青少年健全育成 活動の充実	成果	①計画期間中に、全小中学校で情報モラル教室を開催する ②各年度における年間補導件数10人以下 ※市総合計画指標も同値	少年社会 学校補 導教育 振興課 係	少年補導センター活動 ①街頭巡回 ②環境浄化活動 ③学校における情報モラル教室(非行防止教室)の開催 ④インターネット接続機器のフィルタリングの普及啓発(インターネットの利用ルール啓発)	① (3月末見込) 午前巡回 218回 下校時巡回 195回 合同早朝パト 22回 夜間パト 11回 ②(3月末見込) 巡回時の声かけ400回、指導60回(登下校時、量販店、公園、遊泳場等) ③2会場4教室で実施 ④インターネット利用に関するアンケート実施(5月)、幡多っ子ネット宣言に関するアンケート(12月、2月)	A	①計画期間終了年度16校のうち計画期内で11校実施。令和6年度に教室未実施5校での補導センターによる教室実施は0校。(※過去に実施した中村中、中村西中の2校で依頼があり教室を実施) ②年間補導人数 0人 ①達成率は16校中11校で実施→68.8% ②達成率は100% ※①②総合判断でBとした。	B
		活動	青少年健全育成四万十市民会議を軸としたイベント事業等の実施	社会生涯 学習振 興課係	○青少年健全育成事業の実施	○親子で川遊び(8/25) ○博物館クイズラリー(企画展と連動。通年) ○和菓子をつくろう(1/18) ○まちなか探偵団(3/8)	A	体験講座については、小学校保護者向けの情報伝達アプリ「tetoru」の効果もあり、多くの参加があり、地域や食文化を知るきっかけづくりができた。	○
6 生涯学 習の振 興	(1) 誰もが参加しやすい生涯学習の充実と 推進	成果	図書環境の整備充実 【市総合計画指標】 ①図書館利用者登録率(人口比17.2%) ②市民一人当たり貸出点数(5.07冊) ③ネット予約冊数(700冊)	公民館 生涯学 習運営 係	○図書館連絡会の開催(毎月) ○子ども読書活動推進委員会(1回) ○子ども読書アンケートの実施(12月～1月)	○図書館連絡会の開催(毎月) ○子ども読書活動推進委員会(1回) ○子ども読書アンケートの実施(1月～2月)	A	①図書館利用者登録率14.1%(目標17.2%に対し82.0%) (令和7年3月末現在4,387人) ②市民一人当たり貸出点数4.49冊(目標5.07冊に対し88.6%)(令和7年3月末現在139,659冊) ③ネット予約冊数1,562冊(令和7年3月現在、目標700冊に対し223.1.0%) ※人口31,106人 令和5年度と比較し、③は同様に目標冊数を大幅に上回ったが、①は横ばい、②は34%増であるが、目標値に届いていないことから、成果等達成度については総合判断としてBとした。	B
		成果	市立中央公民館の閉館後においても、令和元年度に実施した生涯学習事業と同等の事業展開を図る 【市総合計画指標】 生涯学習講座の参加者数 400人	社会生涯 学習振 興課係	生涯学習活動の継続及び支援 ①生涯学習事業の継続 ②活動団体の支援	①四万十シルバー教室(延べ219人) ①科学実験教室零下196℃の世界(16人) ①植物から香水・芳香剤を作ろう(22人) ①ランプシェード工作体験(28人) ①正月飾りづくり教室(21人) ①市民大学(3講座:881人) 第1回 伊沢拓司 373人 第2回 谷本道哉 281人 第3回 木山祐策 227人 ②四万十市文化祭を参照	A	生涯学習講座の総参加者数 1,187人/400人=297%	S
		成果	管理運営実施計画や実施設計の策定	文化複 合生涯 学習整 備推進 室	総合文化センター整備に係る工事等の実施 ①湧水調査及び対応方針の検討 ②一部繰越となった施設駐車場整備工事(土木工事、建築工事)の実施 ③四万十市立文化センター跡地利用の検討	①湧水の発生は確認されなかったため、周辺家屋等の事後調査結果に基づく補償対応予定。 ②6月30日完成 ③庁内での検討する会議を実施し方針を策定中。	A	4月29日の閉館を無事に終え、管理運営も順調に実施されている。一方で数カ所に及ぶ不具合等も確認されており、順次対応を行っている。	A

施策 の柱		目標 種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度 の取組計画(目標)	R6年度 の取組実績	取組 等達成 度	R6年度 の成果・効果	成果 等達成 度
6 生涯学習 の振興	(1) 誰もが参加しやすい生涯学習の充実と推進	成果	設置目的の異なる施設を複合化した施設となるので、管理や運営に必要な事項を定め、スムーズな開館・運営を行う	文化複合生涯学習整備推進室	総合文化センター開館及び利活用 ①開館記念式典の開催 ②施設貸出開始 ③開館記念事業の実施 ④文化事業の実施	①開館記念式典・美術展(令和6年4月29日) ②令和6年5月～ ③金子三勇士ピアノリサイタル(令和6年4月30日) 映画上映会(令和6年5月1日、5日) 夜カフェ(令和6年5月2日) まるごとしまんとびあ(令和6年5月3日) 山崎まさよしスペシャルライブ(令和6年5月4日) 施設開放事業 しまんとホールひとりじめ(令和6年5月6日) ④指定管理者主催事業、官・民主催事業が多数あり	A	新施設ということもあり、官民の主権を問わず、催事に対して多くの来客があり、市民の文化芸術に触れる機会を創出できた。 フリースペースにおいても、小中高校生、成人に至るまで、学習・交流の場としての利用が多くあった。	○
	(2) 芸術文化の振興	活動	質の高い芸術文化に触れる機会を確保し、文化芸術に関わる人材の育成、団体活動の支援を行う	社会生涯学習振興係	①四万十市美術展の実施 ②四万十川国際音楽祭の実施 ③四万十市文化祭の実施	①運営委員会(3回) ①四万十市美術展(11月。入場者1,300人) ②実行委員会(3回) ②中村交響楽団演奏会(8月、710人) ②ライナー・キュッヒル・ヴァイオリンリサイタル(10月、520人) ②ジュニア弦楽アンサンブル講座(R6.6月～R7.3月) ③執行委員会(2回) ③文化祭参加団体への支援(7月～1月。参加団体39団体) ③合同文化祭の実施(11月)	A	総合文化センターで実施したものについては、新施設ということもあり多くの来客があり、市民の文化芸術に触れる機会を創出できた。	○
	(3) 人権教育の推進	活動	人権問題の学習機会の充実を図る	人権生涯学習係	①人権教育推進講座の開催 ②人権教育研究大会の開催	①11月～1月に計4講座開催 延べ88名参加 ②7/26開催 教職員、保育士を中心に338名参加	A	①扱いの少ないテーマなども取り入れグループワークの実施により学習の充実を図れた。 ②講演、他所の実践を学び新たな知識等を得られた。	○
		活動	男女共同参画意識の形成を図る	人権生涯学習係	①男女共同参画講座の開催 ②男女共同参画計画の推進	①お片付け講座(2回)、バランスボール教室(2回)、妊娠～産後の心と体を支えるセミナー(1回)、相続の基礎知識とその対策(1回) 合計6回 ②男女共同参画計画推進協議会開催(1回)、婦人会活動支援(補助金等)	A	男女共同参画推進講座では昨年に引き続き、家事についての講座や妊娠・出産以降の女性の心身をケアする講座、健康づくりの講座や生活に必要な知識を得る講座等、西土佐地域・中村地域で様々な講座が開催できた。参加者集めに苦慮はしたが、参加いただいた方からは好評をいただいた。	○
	(1) 健康とふれあいのための生涯スポーツの振興	成果	①教室後のアンケート調査において満足群の参加者の割合を高める。 満足群率目標80% ②【市総合計画指標】 1人当たりの社会体育施設利用者数(5.0回人口比)	スポーツ生涯学習振興係	スポーツ人口の裾野拡大及び市民スポーツの普及 ①スポーツ体験教室 ②運動・あそび体験 ③日本体育大学スポーツ等連携事業 ④体育施設の計画的な老朽化対策	①「スポーツ合同体験会2024(2/8、実施予定) 安並運動施設5会場を利用 10種目を予定 ②あそびバ！In高知 安並運動公園体育館を会場に遊びを通して、運動の基礎を作るイベントを共催(親子31組) ③未実施 ④スポーツセンター屋上(庇)防水工事、テニスコート夜間照明LED化工事、トレーニングルーム(フィットネス器具)修繕、下流交流センタートイレ修繕、武道館道場LED照明修繕	A	②あそびバ！については、参加者の全員が非常に満足、おおむね満足との結果が得られた。(県担当課集計) ③スポーツイベント等の実施には至らなかったが、同大学への訪問による交流・情報交換を行った。(11/22)	A

施策 の柱		目標 種別	R2～R6 成果等目標	R6年度					
				担当	R6年度の取組計画(目標)	R6年度の取組実績	取組 等達 成度	R6年度の成果・効果	成果 等達 成度
7 ス ポ ー ツ の 振 興	(2) 各種イベント等を 介したスポーツの振興	活 動	①交流人口増大 ②地域経済活性化 ③市民スポーツ意識の向上 ④競技力の向上	ス ポ ー ツ 学 振 興 課 係	—	—		—	
				ス ポ ー ツ 学 振 興 課 係	四万十川ウルトラマラソンの実施	●第30回四万十川ウルトラマラソン ・開催日 令和6年10月20日(日) 【出走者数】 ・100kmの部 1,618人 ・60kmの部 589人 計 2,207人 【完走者数】 ・100kmの部 1,220人 ・60kmの部 537人 計 1,757人 ※完走率 79.6%	A	・ランナーのエントリー:募集から2週間程度で定員に 到達。 ・ボランティア数:1,644名 節目の大会となった30回大会も5年ぶりに前夜祭を 復活、大会ゲストを招致し、本市を代表するスポーツイ ベントを成功へと導くことができた。 ・30回目の節目の大会となったが、RKC特別番組製 作及び放送、SNS(市ホームページ、ランネット等)に より、県内外に大会の魅力を広く発信した。	○
				ス ポ ー ツ 学 振 興 課 係	①スポーツ合宿等の誘致活動 ②スポーツツーリズムの推進	【スポーツ合宿】 ・高知大学合気道部 (9/21～23) ・明治安田生命硬式野球部 (2/12～16) ・同志社大学硬式野球部 (2/17～21) ・足利大学硬式野球部 (2/22～3/2) ・京都先端科学大学準硬式野球(3/3～7) ・大阪大学硬式野球部 (3/7～12) ・札幌学院大学硬式野球部 (3/13～20)※3/24～26	A	・スポーツ合宿 高知大学(合気道) 5名 (9/21～23) 他に6団体から合宿に来訪見込。 ・誘致活動 関東方面:11/22実施 (1大学3旅行会社) 関西方面:1/8～9実施 (8旅行会社)	○
				ス ポ ー ツ 学 振 興 課 係	①女子ソフトボールJDリーグの実施 ②西日本一般男子ソフトボール大会の実施	①ニトリJDリーグ2024 第9節四万十ラウンド開催 (9/7～8) ②第14回西日本一般男子ソフトボール大会開催 (11/9～10)	A	①来場者:2,304名(2日間) 本市で初となる女子のソフトボール公式戦。本市出身 の下山絵理選手の凱旋もあり、2日間で2,000人を超 える観客動員となり大いに大会を盛り上げることがで きた。 ②中国・四国・九州各地から18チームが参加。 市内宿泊:277泊	○

○取組等達成度評価区分

- S=計画以上の実施
- A=計画通り
- B=実施内容が計画より低水準
- C=未実施

○効果区分(目標種別が「活動」の施策)

- =良い効果が得られたもの
- △=効果が無いか、効果影響の良否が
不明となったもの
- ×=悪い効果となったもの